

○普通課程(2科)

訓練科	参考にした企業の声	育成する人材	カリキュラム変更内容
メカトロニクス科	・製造装置の組み立てはいろいろな知識が必要であり、総合力が求められる。検査の方法等も知っておく必要がある。	・機械、電気、情報、制御などの製造業に必要な知識技能を習得し、様々な製造現場で活躍できるまた自動化設備の設計、製造できる人材を育成する訓練を実施する。	変更なし
自動車整備科	・日本人の整備士が少ない。車体状態が千差万別であり、画一化できるものでないため、人の手による作業が求められている。	・自動車整備に関する知識を深め、2級自動車整備士を目指し、自動車整備工として活躍できる人材を育成する訓練を実施する。	変更なし

○短期課程(10科)

訓練科	参考にした企業の声	育成する人材	カリキュラム変更内容
NC加工エンジニア科	・汎用機の加工はなく、NCを重用する。 ・汎用旋盤、汎用フライス盤は機械加工の基本となり、MC、NC旋盤と比較するとどの職場でも同様に使用できるのでしっかり扱えるよう教育する必要がある。	・NC工作機械を主として訓練を実施し、2次元、3次元CADを習得し、デュアル訓練(企業実習)で実践の場を設け、実践の場で機械加工のできる人材を育成する訓練を実施する。	・日本版デュアルシステム訓練を取り入れる。約2か月間の企業実習を実施する。 ・汎用加工機で行う訓練から、CAD/CAM中心の訓練を実施する。
3次元CADモデリング科	・強度検討、2DCAD、3DCADが設計の基本となり、設計は一から考えるよりかは、ベースをアレンジすることができる必要があり、また顧客の潜在ニーズを聞き取る力も設計者には必要となる。	・2次元、3次元CADを習得する訓練を実施し、基本的な力学計算およびCAE解析の習得し、機械設計のできるエンジニアを育成する。	・6ヶ月で行う訓練を1年で行う訓練に変更、機械加工を行っていた時間を減らし、CADを行う時間を増やした。 ・機械設計を行うために必要な材料力学等の解析に関する訓練を実施する。
溶接エンジニア科	・溶接できる人はすごく重宝される。 ・溶接の種類によって必要な内容が変わるため、共通項目と種類ごとの項目に分けて学ぶことが必要である。 ・機械加工と溶接の訓練科は分けた方がよい。	・一般溶接作業に関する技能、産業用ロボットを用いた溶接の自動化技術に関する技能の習得を行い、溶接技術者として活躍できる人材を育成する訓練を実施する。	・機械加工に関する訓練は行わず、溶接に特化した訓練を実施する。
電気設備エンジニア科	・電気設備に精通する人材の確保が困難な状態である。 ・自動化を通り越して無人化を図ろうという業界だが、メンテナンスは必要なのでこれから需要が増える分野だと考えている。	・電気設備、エネルギー技術および自動化システムの制御に関する知識・技能の習得を行い、製造業における電気系設備保全、制御システム設計のできる人材を育成する訓練を実施する。	・電気の基礎知識から電気工事に関する施工方法の習得、太陽光発電を始め、省エネルギーに関する知識、IoTホームセキュリティおよびHEMSを取り入れた内容を実施する。 ・PLC制御の基本をはじめ、制御盤製作、電気設備に関する保全技術を取り入れた内容を実施する。
木造建築科	・大工や現場監督、設計補助等の建築関係は人材不足であり、求人は1人に対して10社以上と多くある。 ・30歳台後半や40歳台前半の人材も業界として求めており、図面を見て、現場全体をイメージできることが重要である。	・建築全般に関する基本的な知識および木造住宅の施行に関する技能の習得を行い、建築大工、建築施工のできる人材を育成する訓練を実施する。また、2級建築士受験資格を目指す訓練科として訓練を実施する。	・デジタルリテラシー追加に伴う訓練内容に合わせて、2級建築士受験資格が得られるよう学科と実技の内容に調整し、訓練を実施する。
住宅リフォーム科	・30歳台後半や40歳台前半の人材も業界として求めており、図面を見て、現場全体をイメージできることが重要である。 ・DIYやリフォーム等がテレビ番組でも流行っているので、手に職をつけることが有利であることをPRしていくべきである。	・インテリアコーディネート、建築設備、建築パースおよび建築CADなどを重視し、営業提案、設計補助のできる人材を育成する訓練を実施する。	・インテリアコーディネーター関連等、特に就職に役立つ部分の内容充実を図る。 ・リフォームに関する建築設備に関する内容を追加する。 ・建築パースおよび建築CADを充実させる。 ・木材加工の基本と内装の下地組改修・仕上げを中心に内容を絞る。
住環境施工科	・クロスは専門に頼むが、床はり(タイルカーペットやフロアタイル)、内部塗装、コンクリートの押さえや表面塗装ができると外注せずに廻れる。	・内装仕上げ作業、インテリア、建築に関する基礎に関する技能の習得を行い、内装業、塗装業、建築設計補助のできる人材を育成する訓練を実施する。	・塗装および建築内装施工、建築・インテリア関係の基礎知識を習得することを重視していく。
服飾デザイン科	・アパレルCAD/CAMは縫製工場では必須。 ・アパレルCAD/CAMは必要である。手作業で製図ができないとCADでの製図は難しいので、手作業での製図の授業も続けるべきである。	・服の縫製作業に関する技能の習得および、リフォーム、販売のできる人材を育成する訓練を実施する。	・アパレルCADを導入し、製図実習、縫製訓練の充実を図る。 ・編地等の特殊素材や新素材の縫製、リフォーム縫製を加え、布帛中心であった縫製訓練を更に充実させる。
ICT技術科	・『設計(基本設計・詳細設計)→コーディング→テスト・評価』(開発工程)の内容をカリキュラムに入れ込み、最終課題をAIやIoT等の技術を取り入れてゴールを明確にすると良いと思う。	・ソフトウェアプログラミングに関する基礎的な技能・知識および各種サーバーに関する基礎的な技能・知識の習得を行い、ソフトウェアの開発、保守、企業におけるネットワーク構築・保守を行える人材を育成する訓練を実施する。	・ソフトウェア技術者の求人ニーズに応えるため、ハードウェアの技能を減らし、ソフトウェアの技能を学ぶ訓練を充実させる。
総合実務科	・各人のハンディキャップに応じた訓練が必要となるので、画一的でない対応が必要ではないか。 ・障害のある方は、単純作業を一生懸命やってもらえており、重宝している。製造業に向けた訓練もあるとよいのでは。	・軽度な知的障害のある者を対象に、販売、事務、物流の基本を習得し、職業自立ができる人材を育成する訓練を実施する。	変更なし